

学校長通信 No.13

地域人材育成に関する協定（泉佐野市×大阪府教育委員会）

1月23日(金)、泉佐野市役所におきまして、泉佐野市と大阪府教育委員会との間で、「地域人材育成に関する協定書」が取り交わされました。協定書の第一条には（目的）が掲げられており、そこには、以下のように謳われております。

第1条 泉佐野市と大阪府教育委員会は、府立日根野高等学校における「看護メディカル専門コース」及び「子どもみらい専門コース」の教育活動に関し、連携して必要な対応を行うことにより、医療・幼児教育分野の地域人材の育成に資することを目的として、本協定を締結する。

具体的に申し上げますと、来年度から普通科専門コース設置校として新たなスタートをきります本校に対し、専門コースの教育活動に係るコーディネーターの調整、専門分野の人材による授業・講演、高校生を対象とする市内関連施設でのインターンシップ活動等、これらのことに泉佐野市のご協力がいただけるということになりました。府立学校の活動を対象に、市町村と府教育委員会が連携協定を結ぶということは、今回が初めてのこととお聞きしております。この実現に向けまして、ご尽力いただきました関係者の皆さまの様々なご支援とご配慮に対し心より感謝申し上げたいと思います。

この学校長通信の場におきまして、何度となく繰り返し書かせていただいておりますように、本校の使命は、「世界的な視座を備えたうえで、家族と地元を愛し地元へ貢献する人材の育成」にあります。特にそれを、泉佐野市が推進する「国際医療特区構想を核とした街づくり」にマッチングさせていくということができれば、これに勝るものはないと心得ております。

ただし、私たちの日根野高等学校は、看護メディカル系・児童保育系という特色ある2系統の専門コースを設置するとはいうものの、すべての生徒達がそのどちらかの道を選択するわけではありません。（学校説明会などでの希望調査結果などを見ておりますと、おおまかに半数近い生徒達が2系統のどちらかを選択していますが、残り半数は別の進路を希望しております。）このことは、多様性を掲げる公立学校として誠に健全な姿であり、専門2系統以外の道を選択していく生徒達のために、どのような準備をしているか、ということが本校のもうひとつの価値となります。これにつきましては、昨年4月の学校長通信 NO.2～3 にまとめておりますので、ご高覧いただければ幸いです。